

大規模災害時における 事務所機能の移転を踏まえた 初動対応訓練



仙台保健福祉事務所 災害時初動対応訓練ワーキンググループ

報告内容

- 1 当事務所の課題と被災状況
- 2 アクションカードの作成
- 3 訓練の実施
- 4 訓練結果を踏まえた改善



震災3日後(2011.3.14撮影)

事務所

国道45号線



事務所1階部分 (2011.3.14撮影)

公用車22台のうち11台流出

事務所公用車駐車場 (2011.3.14撮影)



機動力としての移動手段を失う

事務所正面玄関 (2011.3.14撮影)



大規模災害時こそ、保健所は住民から頼られる存在なのにその活動拠点を失う

現在も継続する課題と対応策

津波浸水区域内に所在



津波注意報発令時
避難指示の対象

庁舎内での活動不可



保健福祉事務所としての役割を果たすためには

- 活動拠点の確保
- 情報連絡体制の確保
- 機動力の確保

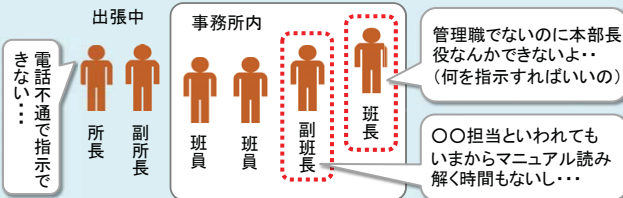
災害応急対策活動計画

東北歴史博物館
(多賀城市)に
事務所機能を移転
(協定締結)

限られた時間の中で
職員・来庁者の安全を確保しつつ
活動拠点を移転させなければならない

アクションカードとは

大規模災害発生



アクションカード

災害時に行うべき行動を各担当ごとに具体的に記載してあるカード
迷わず、迅速な行動が可能
カードの記載内容に従えば、特定の職員でなくても、役割を果たすことができる。

機動力確保＝公用車移動が重要



公用車が津波で流出 (渋滞の可能性)

広域的な停電・電話等の不通が発生する大規模災害時には、**機動力が欠かせない(公用車必要)**

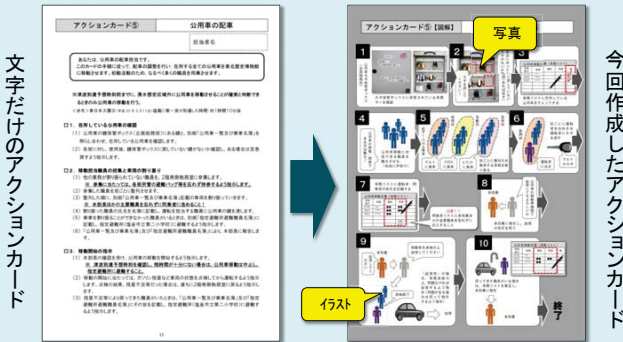


短時間で公用車を移動(職員の安全確保)

アクションカードの活用が有効

時間的制約があるため、従来カードとは別な工夫が必要

内容の明確さ、わかりやすさを視点を



図解(イラスト), 写真等を多用したものを作成

本番さながら 迫真の演技で訓練

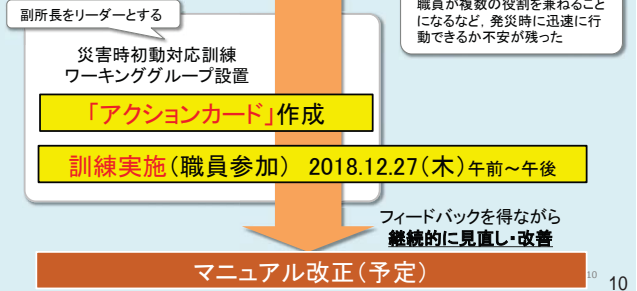
スタッフが様々な難題を投げかける来所者役となり、担当がアクションカードに基づき適切な対応がとれるか確認



アクションカードを作成し訓練実施

仙台保健福祉事務所「災害応急対策活動計画」

東北歴史博物館への移動を含むマニュアル作成



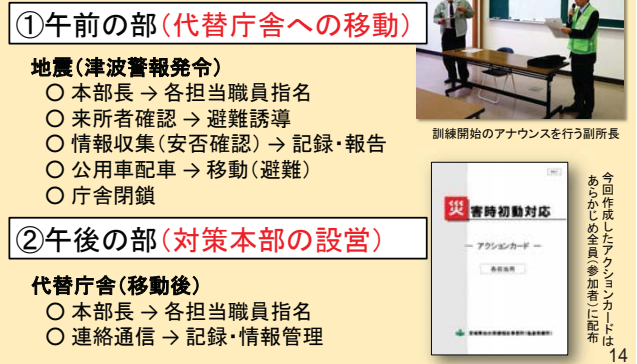
本部長は誰がなっても対応できる

カードをみれば、迅速に迷わず対応



訓練実施概要(2部構成で実施)

当事務所職員34名+スタッフ8名参加
2018年12月27日(木)大会議室で実施

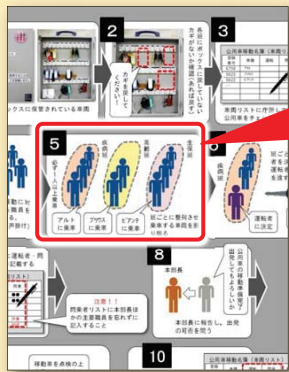


確実に避難場所へ 誘導地図を作成



イメージしやすいカードでの確な行動

公用車の配車の様子



イラストで配車を定める図があるので実際に行動のイメージがしやすい

緊迫感をもって訓練を実施

スタッフが別室から電話で無理難題な問い合わせを行う



情報収集担当

本部長へ報告



記録担当(クロノ)

改善への提案でより実用的なものに

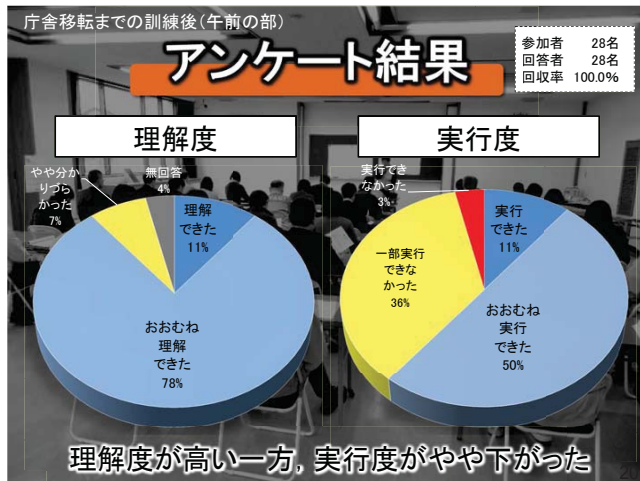


机上の理論でアクションカードを作成しているため、実際に機能しているかは、**参加者からの改善への提案**が必要



終了後は全員で反省会

アンケート実施



アンケートや反省会の意見を整理・分析



各職員の見解

1つずつ対応策を検討

改善に向けた意見・提案は延べ100件を超えた

検討中の改善事項の例

項目	課題	対応策
職員安否確認	職員安否情報の報告記録に 時間を要した	あらかじめ職員の名前が記載された 様式を準備 (×氏名記入○氏名にチェック) 各班からの 報告は書面 により行う
車の配車	公用車に乗る職員の割振に 時間を要した	運転担当職員だけ 割り振り その他の職員は 徒歩 で移動 (公用車移動を優先)
庁舎閉鎖	保健福祉総務課への報告を 失念した	庁舎閉鎖担当は 2人1組 行動にモレがないか 相互にチェック
連絡通信	外部からの情報量が多いため、 聞き漏らし や 書き漏らし が発生	情報受信担当と、 受信事項を記録する担当を、それぞれ割り振り (2人1組で稼働) 受信者は受信内容を復唱 その内容を記録者が記録

考察1 アクションカードに図解・写真を多用

- ↑ 各担当ごとの業務に対する参加者の理解度は比較的高かった
- ↓ 業務相互の関連性については実際に訓練を経験しないと理解が難しいと考える職員が多かった

・インプットした知識を実際に運用できるものにするためには、**アウトプット＝訓練への参加**が不可欠
・今後も**継続的に訓練を実施**するとともに、可能な限り多くの職員が参加できるように配慮する

考察2 アクションカードによる訓練の効果①

- ↓ 訓練は時間制限や情報量の多さにより参加者に負荷を与える内容だった
- ↑ 訓練実施後の反省会やアンケートでは、アクションカードや訓練の改善に向け、延べ100件を超える意見や提案を受けた

・相当程度の負荷を受けたことが逆に、主体的な**参画意識の醸成**につながったものと推察
・参加者からの**意見・提案を改善に反映**させ職員が**主体的に参画**できる環境づくりを行う

考察2 アクションカードによる訓練の効果②

- ↓ 外部から連絡・照会を大量に受けることを想定した「本部運営訓練」
→ 難易度が高く、参加者は当初かなり混乱
- ↑ わずか30分程度の訓練の中で、対応力が向上した

・短期間でも集中的な訓練により**能力向上が可能**
・災害対応のみならず、平時の業務を含めた職員の**危機管理能力の向上に効果**を持つものと期待
(当所以外の職場においても導入の検討を提案)

【トピックス】

大規模災害時における「地域災害医療連絡会議」 活動場所の移転・確保

○「地域災害医療連絡会議」の活動

【目的】

- ① 災害時に、保健所・市町村等の行政担当者や地域の医師会や災害拠点病院等の医療関係者、医療チーム等による定期的な情報交換(平成24年3月21日付け厚生労働省医政局長通知)。
- ② 市町村の救護所や避難所に「医療救護班」の派遣調整

【構成員】

地域災害医療コーディネーター、郡市医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、病院、市町村、広域消防組合、保健福祉事務所(保健所)等

○活動場所の確保

- ・東日本大震災の経験を踏まえ、**災害時には災害拠点病院である坂総合病院から活動場所の提供を受ける**ことにした。⇒情報収集について大きなメリット

○訓練の実施

- ・東日本大震災と同規模の地震及び津波を想定した初動対応訓練を、各構成員の参加を得て実施する。
- ・実績 平成30年3月19日(坂総合病院を会場に訓練を実施)
- ・今後の予定 平成31年4月(災害拠点病院(坂総合病院)の大規模災害訓練と同時に実施する)